

平成 23 年 1 月 29 日  
株式会社ハイレックスコーポレーション  
取締役社長 寺浦 實

### 当社株式の大規模買付等に関する対応方針（買収防衛策）

当社は、平成 20 年 1 月 26 日開催の当社第 64 期定時株主総会にて株主の皆様のご承認を得て、当社株式の大規模買付等に関する対応方針（以下「旧プラン」といいます。）を導入しております。

旧プランの有効期間は平成 23 年 1 月 29 日開催の当社第 67 期定時株主総会（以下「本定時株主総会」といいます。）の終結の時までであることから、旧プランを一部変更（以下、変更後の対応方針を「本プラン」といいます。）し、本定時株主総会において株主の皆様へ本プラン継続をあらためてご提案し、ご承認を得ました。その有効期間は、本定時株主総会終結のときから平成 26 年 1 月 31 日までに開催される第 70 期定時株主総会終結のときまでの 3 年間とします。ただし、定時株主総会において本プランを継続することが承認された場合には、かかる有効期間は更に 3 年間延長されるものとします。

本プランの内容は以下の通りです。

#### 1. 当社における企業価値及び株主共同の利益の確保・向上に向けた取り組みについて

##### (1) 当社の企業価値の源泉

当社の企業価値の源泉は、

- ① 1946 年の創業以来、コントロールケーブル一筋に心血を注ぎこみ、常に業界のリーディングカンパニーとして長年培ってきた高品質ケーブルの製造技術・ノウハウとこれらケーブルを使ったコントロールシステムの製品開発力及びこれらに関するお客様（特に自動車メーカー）・仕入先様からの高い信用
- ② 当社の創業者の理想「この仕事を通じて社会に貢献する」「この仕事を通じて立派な人を創る」を受け継ぎ、それを実現する方策である社訓「良品・安価・即納」、経営信条「信義誠実・和衷協力・不撓不屈・業務奉仕」のもとに確固とした公正・公平な企業文化を築き上げ、経営陣と従業員の固い信頼関係を基盤に、全社一丸となって社会の要請に応えていく中で得られてきたお客様、仕入先様、社会との強固な信頼関係
- ③ これらの信用・信頼関係を更に高め、株主の皆様への安定的な還元策の維持向上、製品開発力・コア技術を維持発展させていくために必要不可欠な中長期ビジョン、及び中長期的な製品開発計画のために必要な設備投資等、これらを不測の経済変動にも耐え、支えていくことができる健全な財務体質

にあります。

当社は「株主」の皆様を始め「お客様」「仕入先様」「従業員」「社会」という全てのステークホルダーから「安心・安全な価値ある企業」として信頼され、支持され、更に今後も共に中長期的な価値を創造していくことこそが企業価値の源泉ひいては株主価値の最大化を実現する道と考えております。

## (2) 中期経営計画について

当社は、企業価値の最大化を実現するために中期経営計画を策定し、毎年見直しをはかり、計画をローリングさせながら進めております。

当社グループを取り巻く昨今の事業環境は、大きな変化を迎えております。中国、インド等新興国の自動車市場は急速に拡大をしているのに対して、先進諸国での市場拡大は頭打ちになりつつあります。国内の各自動車メーカーは、生産コストの低減と為替リスクの回避を目的として、海外への生産シフトを加速しております。また、自動車ニーズは、環境意識の高まりからグリーンカーへと移行し、電気自動車開発競争が激化しております。

このような事業環境の大きな変化に対応すべく、当社グループは「変化へ乗り出す」を合言葉に自ら能動的に変化していくことで、これらの変化に対応することを基本戦略とし、以下の3つに力を注いでまいります。

- I. 中国、インド等新興国におけるシェア拡大
- II. グローバルビジネスの拡大
- III. グリーンカー時代の新製品開発

そのための具体的方策として、以下の5つを柱としております。

### ① 開発強化

グリーンカー時代の中、既存製品の素材と設計を見直し、軽量化を図るだけでなく、新たなニーズをとらえて、当社の技術力を生かした製品の提案をしております。

### ② 原価創造

当社グループ最大の強みであります世界11カ国に展開した生産拠点を活用しながら、世界最適調達、最適生産を実現し、コスト競争力を強化してまいります。

### ③ 世界戦略

中国、インド等新興国でのシェア拡大に重心を置き、販売活動に努めるとともに、成熟市場に向けてはシステム製品の競争力をより一層高め、販売を拡大してまいります。

### ④ 安心品質

グローバルでの品質管理を徹底し、世界中の全ての生産拠点から同一品質の製品をお客様へお届けすることで、安心して買っていただける体制を築いてまいります。

### ⑤ 管理体制

内部統制システムの運用を通して、当社グループの管理体制を向上させてまいります。

これら中期経営計画の着実な実行を通じて、コントロールシステムを中心とした創造性豊かなシステム製品企業として、グローバルに社会貢献することにより、当社のブランド価値を更に高め、お客様の満足と同時に企業価値の向上を目指してまいります。

### (3) コーポレート・ガバナンスの仕組みの強化

当社は、企業価値・株主共同の利益の向上のために不可欠な仕組みとして、従来よりコーポレート・ガバナンスの強化を重要な課題に掲げています。当社においては、複数の独立性を有する社外取締役がおり、また、監査役4名のうち3名が独立性を有する社外監査役であり、当社はこれら社外役員全員を大阪証券取引所に独立役員として届出をしております。

当社は、平成13年1月より執行役員制度を導入し、取締役の削減をはかり、迅速かつ機動的な業務執行を行うことができる体制及び経営の意思決定と業務執行の分離をはかりつつ、業務執行を監視する体制を強化するように努めてまいりました。

また、経営陣の株主の皆様に対する責任を明確化するため、取締役任期を1年に設定しております。

なお、当社の会計年度の終期は10月末日であり、定時株主総会は1月下旬に開催しているため、いわゆる株主総会の集中開催による形骸化のおそれはありません。また、より多くの株主の皆様がご出席くださるよう土曜日に開催することを慣例としており、株主総会本来の機能を確保できるように配慮しております。

当社は、以上のような諸施策を実行し、当社の企業価値ひいては株主共同の利益の確保・向上をはかっていく所存であります。

## 2. 本プラン導入の目的

(1) 当社は上場会社である以上、当社の株式が市場で自由に取引されるべきことは当然であり、特定の者の大規模な買付行為であっても、当社の企業価値ひいては株主共同の利益の拡大につながるものであればこれを否定するものではありません。また、会社の支配権の移転を伴う当社の株式買付に応じるか否かの判断は、最終的には当社株主の皆様判断に委ねられるべきものです。

しかしながら、大規模な買付行為の中には、その目的等からして企業価値・株主共同の利益に明白な侵害を与えるもの、株主の皆様売却を事実上強制するもの、当社の取締役会が代替案を提示するための十分な情報や検討期間を与えないもの、株主の皆様十分な検討を行うための時間と情報を提供しないもの、当社が買付者等の提示した条件よりも有利な条件をもたらすために買付者等との交渉を要するものなど、当社の企業価値・株主共同の利益に反するものが幾つか存在しております。

株主の皆様へ会社の支配権の移転を伴う当社の株式買付に応じるか否かについて適切な判断をしていただくためには、買付者等及び当社取締役会等からの十分な情報提供、株主の皆様が検討を行うのに十分な期間が必要不可欠です。また、当社株式を売却せず継続的に保有するお考えの株主の皆様にとりましても、買付者等が指向する当社の顧客、取引先、地域社会及び従業員等の利害関係者に対する方針を含む経営方針や事業計画の内容等は、その継続保有を検討する上で重要な判断材料です。このような濫用的な買付行為が行われることを未然に防止できなければ、当社の強みである製造技術を支える優秀な従業員の流出を招き、お客様・仕入先様・社会からの強固な信頼を失い、当社の上記1.「当社における企業価値及び株主共同の利益の確保・向上に向けた取り組み」の遂行に大きな影響を与えかねません。

そこで、当社は、大規模な買付行為の是非につき最終的判断を行う株主の皆様が適切な判断を行うために必要となる情報等を収集・提供し、買付者等の意図する買収後の当社の経営方針が当社の企業価値及び当社株主共同の利益の向上に資するものであるか否かを評価・検討することを可能とするルールが必要であり、また、かかる評価・検討の結果、当該買付行為が当社株主共同の利益及び当社の企業価値を害するものであると判断される場合には大規模な買収提案の内容を改善すべく買付者等と交渉するとともに、必要に応じて対抗措置を講ずる必要があると考えます。

当社は、このような基本的な考え方に立ち、大規模買付等が一定の合理的なルールに従って進められることが当社株主共同の利益及び当社の企業価値の確保・向上に資すると考え、本プランの継続導入を決定いたしました。

当社の提案する本プランは、当社に対する買収行為の一切を排除しようとするものではなく、あくまでも買収行為を行おうとする者が買収条件等について十分な情報を株主の皆様へ提供することを確保するとともに、当社取締役会と誠実かつ真摯に交渉する機会と時間を確保し、その結果、当社株主共同の利益及び当社の企業価値の確保・向上の観点から、最適な結果を導くものです。また、かかるルールを予め設定し、買収の透明性を図ることは、かかるルールを設定していない場合に比して、買付者等の予見可能性を確保し、当社及び当社株主の皆様へ利益となるような大規模買付等に対して萎縮的効果を及ぼすことを未然に防止できるものと考えております。

- (2) なお、本プランにおいては、対抗措置の発動等にあたって、当社取締役会の恣意的判断を排するため、別紙1「独立委員会規則」に従い、社外取締役、社外監査役、または社外の有識者（実績のある会社経営者、官庁出身者、弁護士、公認会計士もしくは学識経験者またはこれらに準じる者）で、当社の業務執行を行う当社経営陣から独立した者のみから構成される独立委員会の勧告を最大限尊重するとともに、株主の皆様へ適時に情報開示を行うことにより透明性を確保することとしています。本プランの独立委員会の委員には、現委員である池永重彦氏、吉竹英之氏、畑守人氏を、それぞ

れ再任いたしました（各委員の氏名及び略歴については別紙2をご参照下さい。）。

- (3) 平成22年10月31日現在における当社の大株主の状況は、別紙3「大株主の状況」の通りです。

### 3. 本プランの内容

#### (1) 本プランの定める手続

##### ① 対象となる大規模買付等

本プランは、特定株主グループ<sup>1</sup>の議決権割合<sup>2</sup>を20%以上とすることを目的とする当社株券等<sup>3</sup>の買付行為、または結果として特定株主グループの議決権割合が20%以上となる当社株券等の買付行為（市場取引、公開買付け等の具体的な買付方法の如何を問いません。）のうち、当社の取締役会の同意を得ていないもの（以下、かかる買付行為を「大規模買付等」といい、かかる買付行為を行う者またはその提案者を「買付者等」といいます。）を適用対象とします。買付者等は、予め本プランに定められる以下の手続に従わなければならないものとします。

##### ② 意向表明書の当社への事前提出

買付者等におきましては、大規模買付等の実行に先立ち、当社取締役会に対して、当該買付者等が大規模買付等の際して本プランに定める手続を遵守する旨の誓約文言等を記載した書面（以下「意向表明書」といいます。）を当社の定める書式により提出していただきます。

具体的には、意向表明書には、以下の事項を記載していただきます。

##### (i) 買付者等の概要

---

<sup>1</sup> 特定株主グループとは、①当社の株券等（金融商品取引法第27条の23第1項に規定する株券等をいいます。）の保有者（同法第27条の23第1項に規定する保有者をいい、同条第3項に基づき保有者に含まれる者を含みます。）及びその共同保有者（同法第27条の23第5項に規定する共同保有者をいい、同条第6項に基づき共同保有者とみなされる者を含みます。以下同じとします。）または②当社の株券等（同法第27条の2第1項に規定する株券等をいいます。）の買付等（同法第27条の2第1項に規定する買付等をいい、取引所有価証券市場において行われるものを含みます。）を行う者及びその特別関係者（同法第27条の2第7項に規定する特別関係者をいいます。）を意味します。

<sup>2</sup> 議決権割合とは、特定株主グループの具体的な買付方法に応じて、①特定株主グループが当社の株券等（金融商品取引法第27条の23第1項に規定する株券等をいいます。）の保有者及びその共同保有者である場合は、当該保有者の株券等保有割合（同法第27条の23第4項に規定する株券等保有割合をいいます。この場合においては、当該保有者の共同保有者の保有株券等の数（同項に規定する保有株券等の数をいいます。）も計算上考慮されるものとします。）または②特定株主グループが当社の株券等（同法第27条の2第1項に規定する株券等をいいます。）の買付等（同法第27条の2第1項に規定する買付等をいい、取引所有価証券市場において行われるものを含みます。）を行う者及びその特別関係者（同法第27条の2第7項に規定する特別関係者をいいます。）である場合は、買付等を行おうとする者及びその特別関係者の株券等保有割合（同法第27条の2第8項に規定する株券等保有割合をいいます。）の合計をいいます。以下同じとします。

<sup>3</sup> 株券等とは、金融商品取引法第27条の23第1項または同法第27条の2第1項に規定される株券等をいいます。以下同じとします。

- (イ) 氏名または名称及び住所または所在地
- (ロ) 代表者の役職及び氏名
- (ハ) 会社等の目的及び事業の内容
- (ニ) 大株主または大口出資者（所有株式または出資割合上位 10 名）の概要
- (ホ) 国内連絡先
- (ヘ) 設立準拠法
- (ii) 買付者等以外の特定株主グループの概要
  - (イ) 氏名または名称及び住所または所在地
  - (ロ) 代表者の役職及び氏名
  - (ハ) 会社等の目的及び事業の内容
  - (ニ) 大株主または大口出資者（所有株式または出資割合上位 10 名）の概要
  - (ホ) 国内連絡先
  - (ヘ) 設立準拠法
- (iii) 買付者等が現に保有する当社の株券等の数、及び、意向表明書提出前 60 日間における買付者等の当社の株券等の取引状況
- (iv) 買付者等が提案する大規模買付等の目的（大規模買付等の目的（支配権取得もしくは経営参加、純投資もしくは政策投資、大規模買付等の後の当社の株券等の第三者への譲渡等、または重要提案行為等<sup>4</sup>その他の目的がある場合には、その旨及び内容。なお、目的が複数ある場合にはそのすべてを記載していただきます。）を含みます。）
- (v) 買付者等が提案する大規模買付等の方法及び内容（買付者等が大規模買付等により取得を予定する当社の株券等の種類・数、買付等の対価の価額・種類、買付等の時期、関連する取引の仕組み、買付等の方法の適法性、買付等の実行の蓋然性を含みます。）

### ③ 「本必要情報」の提供

上記②の意向表明書をご提出いただいた場合には、買付者等におきましては、以下の手順に従い、当社に対して、大規模買付等に対する株主の皆様のご判断のために必要かつ十分な情報（以下「本必要情報」といいます。）を提供していただきます。

まず、当社は、買付者等に対して、意向表明書を提出していただいた日から 10 営業日<sup>5</sup>（初日不算入）以内に、当初提出していただくべき情報を記載した「情報リスト」を上記②(i)(ホ)の国内連絡先に発送いたしますので、買付者等には、かかる情報

<sup>4</sup> 金融商品取引法第 27 条の 26 第 1 項に規定される重要提案行為等をいいます。以下同じとします。

<sup>5</sup> 営業日とは、行政機関の休日に関する法律第 1 条第 1 項各号に掲げる日以外の日をいいます。以下同じとします。

リストに従って十分な情報を当社に提出していただきます。

また、上記の情報リストに従い買付者等から提供していただいた情報では、大規模買付等の内容及び態様等に照らして、株主の皆様のご判断及び当社取締役会の評価・検討等のために不十分であると当社取締役会が合理的に判断する場合には、当社取締役会が別途請求する追加の情報を買付者等から提供していただきます。

なお、大規模買付等の内容及び態様等にもかかわらず、以下の各項目に関する情報は、原則として情報リストの一部に含まれるものとします。

- (i) 特定株主グループの各構成員（ファンドの場合は各組合員その他の構成員を含みます。）の詳細（沿革、具体的名称、資本構成、事業内容、財務内容、役員  
の氏名及び職歴等を含みます。）
- (ii) 大規模買付等の目的（意向表明書において開示していただいた目的の詳細）、  
方法及び内容（経営参画の意思の有無、取得を予定する当社の株券等の種類・  
数、買付等の対価の価額・種類、買付等の時期、関連する取引の仕組み、買付  
等を行った後における株券等所有割合、買付等の方法の適法性及び買付等の実  
行の蓋然性を含みます。なお、大規模買付等の適法性については弁護士による  
意見書を併せて提出していただきます。）
- (iii) 大規模買付等の対価の算定根拠（算定の前提事実、算定方法、算定に用いた数  
値情報、買付等に係る一連の取引により生じることが予想されるシナジーの内  
容、算定の際に第三者の意見を聴取した場合における当該第三者の名称、意見  
の概要及び当該意見を踏まえて金額を決定するに至った経緯を含みます。）
- (iv) 大規模買付等の資金の裏付け（資金の提供者（実質的提供者を含みます。）の  
具体的名称、調達方法及び関連する取引の内容を含みます。）
- (v) 大規模買付等に際しての第三者との間における意思連絡の有無及び意思連絡  
がある場合はその内容及び当該第三者の概要
- (vi) 特定株主グループが既に保有する当社の株券等に関する貸借契約、担保契約、  
売戻契約、売買の予約その他の重要な契約または取決め（以下「担保契約等」  
といいます。）がある場合には、その契約の種類、契約の相手方及び契約の対  
象となっている株券等の数量等の当該担保契約等の具体的内容
- (vii) 特定株主グループが大規模買付等後に保有することとなる当社の株券等（既に  
保有する当社の株券等を含みます。）に関し、担保契約等の締結その他第三者  
との間の合意の予定がある場合には、予定している合意の種類、契約の相手方  
及び契約の対象となっている株券等の数量等の当該合意の具体的内容
- (viii) 大規模買付等の後における当社及び当社グループの経営方針、事業計画、資本  
政策及び配当政策
- (ix) 大規模買付等の後における当社の従業員、労働組合、取引先、顧客及び地域社  
会その他の当社に係る利害関係者の処遇等の方針

(x) 当社の他の株主との利益相反を回避するための具体的方策

なお、当社取締役会は、買付者等から大規模買付等の提案がなされた事実とその概要及び本必要情報の概要その他の情報のうち株主の皆様のご判断に必要であると認められる情報がある場合には、適切と判断する時点で開示いたします。

また、当社取締役会は、買付者等による本必要情報の提案が十分になされたと認められた場合には、その旨を買付者等に通知（以下「情報提供完了通知」といいます。）するとともに、速やかにその旨を開示いたします。

#### ④ 取締役会評価期間の設定等

当社取締役会は、情報提供完了通知を行った後、大規模買付等の評価の難易度等に応じて、以下の(i)または(ii)の期間（いずれも初日不算入）を、当社取締役会による評価、検討、交渉、意見形成及び代替案立案のための期間（以下「取締役会評価期間」といいます。）として設定します。

(i) 対価を現金（円価）のみとする公開買付けによる当社株券等の全部を対象とする公開買付けの場合には 60 日間

(ii) その他の大規模買付等の場合には 90 日間

当社取締役会は、取締役会評価期間内において、必要に応じて適宜外部専門家等の助言を得ながら、買付者等から提供された本必要情報を十分に評価・検討し、当社の企業価値・株主共同の利益の確保・向上の観点から、買付者等による大規模買付等の内容の検討等を行うものとします。当社取締役会は、これらの検討等を通じて、大規模買付等に関する当社取締役会としての意見を慎重にとりまとめ、買付者等に通知するとともに、適時かつ適切に株主の皆様が開示いたします。また、必要に応じて、買付者等との間で大規模買付等に関する条件・方法について交渉し、更に、当社取締役会として、株主の皆様へ代替案を提示することもあります。

#### ⑤ 取締役会評価期間の満了までの大規模買付等の禁止

買付者等は、上記取締役会評価期間が満了するまでの間、大規模買付等を行わないものとします。

#### (2) 大規模買付等がなされた場合の対応策

##### ① 買付者等が本プランに定める手続を遵守しない場合

買付者等により、本プランに定める手続が遵守されなかった場合には、具体的な買付方法の如何にかかわらず、当社取締役会は、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を守ることを目的として、新株予約権の無償割当て等の対抗措置を発動する場合があります。当社取締役会は、買付者等が本プランに定める手続を遵守したか否か、対抗措置の発動の適否、発動する場合の対抗措置の内容について、外部専門

家等の意見も参考にし、また、独立委員会の勧告を最大限尊重し決定します。

具体的な対抗措置については、新株予約権の無償割当てその他法令及び当社定款で認められるもののうち、その時点で相当と認められるものを選択することとなります。具体的対抗措置として、新株予約権の無償割当てを実施する場合の概要は別紙5「新株予約権無償割当ての概要」に記載のとおりですが、実際に新株予約権の無償割当てを実施する場合には、特定株主グループに属する者または特定株主グループに属する者になろうとする者（以下総称して「非適格者」といいます。）でないことを新株予約権の行使条件とする等、対抗措置としての効果を勘案した行使期間及び行使条件を設けることがあります。

## ② 買付者等が本プランに定める手続を遵守した場合

買付者等が本プランに定める手続を遵守した場合には、当社取締役会は、当該買付等の提案についての反対意見の表明や代替案を提示することにより株主の皆様を説得するに留め、大規模買付等に対する対抗措置は発動しません。この場合、買付者等の買付提案に応じるか否かは、株主の皆様において、当該買付等の提案ならびに当社取締役会が提示する当該買付等の提案に対する意見及び代替案等をご考慮の上、ご判断いただくこととなります。

ただし、大規模買付等が別紙4「当社の企業価値・株主共同の利益を著しく損なうと認められる類型」に掲げる行為等により、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を損なうおそれのある場合で、かつ、対抗措置を発動することが相当であると当社取締役会において判断したときには、当社取締役会は、例外的に、新株予約権の無償割当てその他法令または当社定款で認められる措置をとり、大規模買付等に對抗するものとします。

具体的な対抗措置については、新株予約権の無償割当てその他法令及び当社定款で認められるもののうち、その時点で相当と認められるものを選択することとなります。具体的対抗措置として、新株予約権の無償割当てを実施する場合の概要は、別紙5「新株予約権無償割当ての概要」に記載のとおりですが、実際に新株予約権の無償割当てを実施する場合には、非適格者ではないことを新株予約権の行使条件とする等、対抗措置としての効果を勘案した行使期間及び行使条件を設けることがあります。

なお、対抗措置を発動する際の判断の客観性及び合理性を担保するため、当社取締役会は、買付者等の提供する本必要情報に基づいて、外部専門家等の助言を得ながら、特定株主グループ及び大規模買付等の具体的内容や、大規模買付等が株主の皆様全体の利益に与える影響を検討し、独立委員会からの勧告を最大限尊重したうえで判断します。

### (3) 株主意思確認手続

当社取締役会は、大規模買付等に対する対抗措置を発動するにあたり、株主の皆様のご意思を尊重する趣旨から、独立委員会の勧告を受けたうえで、大規模買付等に対し、対抗措置発動の可否またはその条件について株主の皆様に判断していただくこともできるものとしします。

株主の皆様の意思の確認は、会社法上の株主総会またはそれに類する手続（以下「株主意思確認手続」といいます。）による決議によるものとしします。当社取締役会は、株主意思確認手続を開催する場合には、株主意思確認手続の決議の結果に従い、大規模買付等の提案に対し、対抗措置を発動しまたは発動しないことといたします。

なお、当社取締役会は、株主意思確認手続において議決権を行使しうる株主を確定するために基準日（以下「本基準日」といいます。）を設定するにあたっては、本基準日の2週間前までには当社定款に定める方法によって公告するものとしします。

株主意思確認手続において議決権を行使できる株主は、本基準日の最終の株主名簿に記録された株主としします。また、株主意思確認手続による場合には、議決権を行使できる株主に対して、招集通知を株主意思確認手続の2週間前の日までに発送します。

当社取締役会は、株主意思確認手続にて株主の皆様が判断するための情報等に関し、重要な変更等が発生した場合には、株主意思確認手続の本基準日を設定した後であっても、本基準日の変更、または株主意思確認手続の延期もしくは中止をすることができるものとしします。

### (4) 対抗措置発動の手続

本プランにおいては、上記(2)①のとおり、買付者等が本プランに定める手続を遵守しなかった場合には、対抗措置を発動する場合があります。上記(2)②のとおり、買付者等が本プランに定める手続を遵守した場合には、原則として大規模買付等に対する対抗措置を発動しない、という形で対抗措置発動にかかる客観的な要件を設定しておりますが、上記(2)①記載の場合に対抗措置を発動する場合及び上記(2)②記載の例外的対応をとる場合、当社取締役会は、当社取締役会の判断の合理性を担保するために独立委員会に諮問することとしします。

独立委員会は、別紙1「独立委員会規則」に定められた手続に従い、買付者等の買付内容につき評価、検討し、当社取締役会に対する勧告を行います。当社取締役会はその勧告を最大限尊重し、上記対抗措置の発動または不発動等に関する決議を速やかに行うものとしします。当社取締役会は、かかる決議を行った場合、速やかに情報開示を行うものとしします。

### (5) 対抗措置の中止または発動の停止

当社取締役会が上記(4)の手続に従い対抗措置の発動を決議した後、または、対抗措

置の発動後においても、(i)買付者等が大規模買付等を中止した場合、または、(ii)対抗措置を発動するか否かの判断の前提となった事実関係等に変動が生じ、かつ、当社の企業価値・株主共同の利益の確保・向上の観点から発動した対抗措置を維持することが相当でないと考えられる状況に至った場合には、当社取締役会は、独立委員会の勧告に基づき、または、勧告の有無もしくは勧告の内容にかかわらず、対抗措置の中止または発動の停止の決議を行うものとします。当社取締役会は、かかる決議を行った場合、速やかに、当該決議の概要その他当社取締役会が適切と判断する事項について、情報開示を行います。

#### 4. 本プランの有効期間、廃止及び変更

本プランは、本定時株主総会において株主の皆様のご承認を得て継続しましたので、その有効期間は、同定時株主総会終結の時から平成 26 年 1 月 31 日までに開催される第 70 期定時株主総会終結の時までの 3 年間とします。ただし、定時株主総会において本プランを継続することが承認された場合は、かかる有効期間は更に 3 年間延長されるものとします。当社取締役会は、本プランを継続することが承認された場合には、その旨を速やかにお知らせします。

本プランは、有効期間の満了前であっても、当社の株主総会において本プランの変更または廃止の決議がなされた場合には、本プランは当該決議に従い、その時点で変更または廃止されるものとします。また、当社の株主総会で選任された取締役で構成される当社取締役会により本プランの廃止の決議がなされた場合には、本プランはその時点で廃止されるものとします。

なお、当社取締役会は、本プランに反しない範囲、または会社法、金融商品取引法、その他の法令もしくは金融商品取引所規則の変更またはこれらの解釈・運用の変更、または税制、裁判例等の変更により合理的に必要と認められる範囲で独立委員会の承認を得た上で、本プランを修正し、または変更する場合があります。

当社は、本プランが廃止または変更された場合には、速やかに、当該廃止または変更の事実及び（変更の場合には）変更内容その他当社取締役会が適切と認める事項について、情報開示を行います。

#### 5. 本プランの合理性

##### (1) 買収防衛策に関する指針の要件を充足していること

本プランは、経済産業省及び法務省が平成 17 年 5 月 27 日に発表した「企業価値・株主共同の利益の確保または向上のための買収防衛策に関する指針」の定める三原則（企業価値・株主共同の利益の確保・向上の原則、事前開示・株主意思の原則、必要性・相当性の原則）を充足しています。

また、本プランは、平成 20 年 6 月 30 日に公表された経済産業省の企業価値研究会

の報告書「近時の諸環境の変化を踏まえた買収防衛策の在り方」の内容も勘案しております。

(2) 株主共同の利益の確保・向上の目的をもって導入されていること

本プランは、上記2.(1)のとおり、当社株式に対する大規模買付等が行われた際に、当該大規模買付等が適切なものであるか否か、当該買付等に応じるべきか否かを株主の皆様が判断するために必要な情報や時間を確保したり、株主の皆様のために買付者等と交渉を行うことなどを可能とすることにより、企業価値ひいては株主共同の利益を確保し、向上させるという目的をもって導入されるものです。

(3) 株主意思を重視するものであること（株主総会決議とサンセット条項）

本プランは、平成23年1月29日開催予定の本定時株主総会における株主の皆様からのご承認を得ることができましたので、本プランの有効期間は、上記4.のとおり、平成26年1月31日までに開催される当社第70期定時株主総会の終結のときまでの3年間とします。平成26年1月31日までに開催される定時株主総会で株主の皆様からその継続について承認をいただけない場合、本プランは自動的に廃止されることとなっております。また、本プランの有効期間の満了前であっても、株主総会において本プランを廃止する旨の決議が行われた場合には、本プランはその時点で廃止されることとなります。

更に、上記3.(3)に記載のとおり、当社取締役会は、対抗措置の発動に先立ち、株主意思確認手続を招集し、大規模買付等に対して対抗措置を発動するか否かについて株主の皆様のご意思を確認させていただくこともできるものとしており、対抗措置の発動にあたって、株主意思の確認が行われる場合もあります。

以上のように、本プランは、株主の皆様意思の尊重に最大限の配慮を行っております。

(4) 独立性の高い社外者の判断を重視していること

当社は、本プランの導入にあたり、当社取締役会の恣意的判断を排除し、株主の皆様のために対抗措置の発動及び本プランの廃止等の運用に際しての実質的な判断を客観的に行う機関として独立委員会を設置します。

本プランの導入に際し、独立委員会は、社外取締役、社外監査役または社外有識者から構成いたします。

実際に当社に対して大規模買付等がなされた場合には、独立委員会が、独立委員会規則に従い、当該買付等が当社の企業価値・株主共同の利益を毀損するか否か等を判断し、当社取締役会はその判断を最大限尊重して決議を行うこととします。

このように、独立委員会によって、当社取締役の恣意的行動を厳しく監視すると共

に、その判断の概要については適時に株主の皆様へ情報開示することとされており、当社の企業価値・株主共同の利益に資する範囲で本プランの運用が行われる仕組みが確保されております。また、独立委員会は、その検討のために必要に応じ、当社の費用負担において、独立した第三者（ファイナンシャル・アドバイザー、公認会計士、弁護士、コンサルタントその他の専門家を含みます。）の助言を受けることができるとされています。

(5) 合理的な客観的要件を設定していること

本プランにおいては、上記3.(2)及び(4)記載のとおり、大規模買付等に対する対抗措置は合理的かつ詳細な客観的要件が充足されなければ発動されないように設計されており、当社取締役会による恣意的な発動を防止するための仕組みを確保しているものといえます。

(6) 第三者専門家の意見を取得することができること

買付者等が出現すると、当社取締役会は、必要に応じて、独立した第三者（ファイナンシャル・アドバイザー、公認会計士、弁護士、コンサルタントその他の専門家を含みます。）の助言を受けることができるとされています。これにより、当社取締役会による判断の公正さ、客観性がより強く担保される仕組みとなっています。

(7) デッドハンド型やスローハンド型の買収防衛策ではないこと

上記4.のとおり、本プランは、当社株主総会または取締役会の決議をもって廃止することができるものとされており、従って、本プランは、いわゆるデッドハンド型の買収防衛策（取締役会の構成員の過半数を交代させてもなお、発動を阻止できない買収防衛策）やスローハンド型の買収防衛策（取締役会の構成員の交替を一度に行うことができないため、その発動を阻止するのに時間を要する防衛策）ではありません。

なお、当社は、平成20年1月26日開催の当社第64期定時株主総会において、定款変更の決議を行い、取締役の任期を1年としております。

## 6. 株主及び投資家の皆様へ与える影響

(1) 本プランが株主及び投資家に与える影響等

本プランは、上記2.(1)にて記載したとおり、大規模買付等がなされた場合に、大規模買付等に応じるべきか否かを株主の皆様が判断するため、あるいは当社取締役会が代替案を提示するために、必要な情報や時間を確保すること等を目的としています。これにより、株主の皆様は、十分な情報のもとで、大規模買付等に応じるか否かについて適切な判断をすることが可能となり、ひいては株主の皆様全体の利益を確保・向上させることにつながるものと考えております。

なお、前述の 3. (2)に記載のとおり、買付者等が本プランを遵守するか否かにより当該大規模買付等に対する当社の対応方針が異なりますので、株主及び投資家の皆様におかれましては、買付者等の動向にご注意ください。

(2) 本プランの導入時に株主及び投資家の皆様に与える影響

本プランの導入時には、新株予約権の発行自体は行われません。従って、本プランがその導入時に株主及び投資家の皆様の有する当社株式に係る法的権利及び経済的利益に対して直接具体的な影響を与えることはありません。

(3) 本プランに定める対抗措置の発動時に株主及び投資家の皆様に与える影響

買付者等が本プランに定める手続を遵守しなかった場合には、当社取締役会は、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を守ることを目的として、法令または当社定款により認められている対抗措置を発動することがありますが、当該対抗措置の仕組み上、非適格者以外の株主の皆様が法的権利または経済的側面において格別の損失を被るような事態が生じることは想定しておりません。当社取締役会が具体的対抗措置を発動する事を決定した場合には、法令及び金融商品取引所規則に従って適時適切な開示を行います。また、新株予約権の行使または取得に関して差別的条件を付す場合には、当該行使または取得に際して、非適格者の法的権利、経済的利益に影響が生じることが想定されますが、この場合であっても、非適格者以外の株主及び投資者の皆様の有する当社株式に係る法的権利及び経済的利益に対して直接具体的な影響を与えることは想定しておりません。

なお、当社取締役会が対抗措置として、新株予約権の無償割当てを行うことを決議した場合には、当社取締役会決議において別途定める割当期日における当社の最終の株主名簿に記載または記録された株主の皆様に対し、その保有する株式 1 株につき新株予約権 1 個を上限とした割合で、新株予約権が無償にて割り当てられます。

なお、当社取締役会が、新株予約権の無償割当ての決議をした場合であっても、上記 3. (5)に記載の手続等に従い当社取締役会が発動した対抗措置の中止または発動の停止を決定した場合には、当社株式の株価に相応の変動が生じる可能性があります。例えば、当社が買付者等に対して対抗措置を発動し、当社株式 1 株当たりの経済的価値の希釈化が生じることを前提にして売買を行った投資家の皆様は、株価の変動により損害を被る可能性がある点にご留意ください。

(4) 新株予約権の無償割当てに伴って株主の皆様に必要な手続

① 新株予約権の割当ての手続

当社取締役会が新株予約権の無償割当ての決議を行った場合には、当社取締役会において割当期日を定め、これを公告いたします。割当期日における最終の株主名

簿に記載または記録された株主の皆様は、新株予約権が無償にて割り当てられ、かかる株主の皆様は、新株予約権無償割当ての効力発生日において当然に新株予約権者となりますので、申込みの手続等は不要です。

## ② 新株予約権行使の手続

当社は、割当期日における最終の株主名簿に記載または記録された株主の皆様に対し、原則として、新株予約権の行使請求書（行使にかかる新株予約権の内容及び数、新株予約権を行使する日等の必要事項、ならびに株主の皆様ご自身が非適格者ではないこと等についての表明保証条項、補償条項、その他誓約文言を含む当社所定の書式によるものとします。）その他新株予約権の権利行使に必要な書類を送付いたします。

新株予約権の無償割当て後、株主の皆様におかれましては、権利行使期間内でかつ当社による新株予約権の取得の効力が発生するまでに、これらの必要書類を提出した上、新株予約権 1 個当たり、金 1 円以上で当社取締役会において定める価額を払込み取扱場所に払い込んでいただきます。

## ③ 当社による新株予約権の取得の手続

当社は、当社取締役会が新株予約権を取得する旨の決定をした場合には、行使価額相当額の金額を払い込むことなく、当社による新株予約権の取得の対価として、株主の皆様は新株を交付することがあります。新株予約権の取得と引き換えに株式を株主の皆様は交付するときは、別途、ご自身が非適格者ではないこと等についての表明保証条項、補償条項その他誓約文言を含む当社所定の書式による書面をご提出いただくことがあります。

以上

独立委員会規則

1. 独立委員会は、当社取締役会の決議により、大規模買付等への対抗措置の発動等に関する取締役会の恣意的判断を防止し、当社取締役会の判断及び対応の客観性及び合理性を担保することを目的として、当社取締役会の諮問機関として設置される。
2. 独立委員会の委員は、3名以上とし、公正で中立的な判断を可能とするため、当社の業務執行を行う経営陣から独立した社外取締役、社外監査役または社外有識者の中から、当社取締役会が選任する。社外有識者は、実績ある会社経営者、投資銀行業務に精通する者、弁護士、公認会計士もしくは会社法・経営学等を主たる研究対象とする研究者またはこれらに準ずる者でなければならない。
3. 独立委員会委員の任期は、本プランの終結の時までとする。ただし、当社取締役会の決議により別段の定めをした場合はこの限りでない。
4. 独立委員会は、以下の各号に記載される事項について決定し、その決定の内容をその理由を付して取締役会に対して勧告する。当社取締役会は、この独立委員会の勧告を最大限尊重して、新株予約権の無償割当て等の対抗措置の発動または不発動等に関する決議を行う。なお、独立委員会の各委員及び各取締役は、こうした決定にあたっては、専ら当社の企業価値ひいては株主共同の利益に資するか否かの観点からこれを行うことを要し、自己または当社の経営陣の個人的利益を図ることを目的としてはならない。
  - ① 本プランに係る対抗措置の発動または不発動
  - ② 本プランに係る対抗措置の中止及び変更
  - ③ 本プランの廃止または変更
  - ④ その他本プランに関して取締役会が独立委員会に諮問する事項
5. 上記に定めるところに加え、独立委員会は、以下の各号に記載される事項を行うことができる。
  - ① 買付者等及び当社取締役会が独立委員会に提供すべき情報及びその回答期限の決定
  - ② 大規模買付等の内容の精査・検討
  - ③ 当社取締役会に対する代替案の提出の要求・代替案の検討
  - ④ その他本プランにおいて独立委員会が行うことができると定められた事項
  - ⑤ 当社取締役会が別途独立委員会が行うことができるものと定めた事項
6. 独立委員会は、意向表明書及び提出された情報が本必要情報として不十分であると判

断した場合には、買付者等に対し、当社取締役会を通して、本必要情報を追加的に提出するよう求めることができる。また、独立委員会は、買付者等から意向表明書及び当社取締役会から追加提出を求められた本必要情報が提出された場合、取締役会に対しても、所定の期間内に、大規模買付等の内容に対する意見及びその根拠資料、代替案その他独立委員会が適宜必要と認める情報等を提示するよう要求することができる。

7. 独立委員会は、必要な情報収集を行うため、当社の取締役、監査役、従業員その他独立委員会が必要と認める者の出席を要求し、独立委員会が求める事項に関する説明を求めることができる。
8. 独立委員会は、当社の費用で、独立した第三者（ファイナンシャル・アドバイザー、公認会計士、弁護士、コンサルタントその他の専門家を含む。）の助言を得ること等ができる。
9. 各独立委員会委員は、大規模買付等がなされた場合その他いつでも独立委員会を招集することができる。
10. 独立委員会の決議は、原則として、独立委員会委員の全員が出席し、その過半数をもってこれを行う。ただし、やむを得ない事由があるときは、独立委員会委員の過半数が出席し、その議決権の過半数をもってこれを行うことができる。

以上

別紙2

独立委員会委員候補者の略歴

池永 重彦（いけなが しげひこ）

ダイヤモンド電機株式会社（大証第2部）代表取締役社長

昭和35年6月19日生

〔略歴〕

昭和58年4月     ダイヤモンド電機株式会社入社  
昭和59年2月     同社取締役  
平成3年5月     Diamond Electric Mfg. Corporation（米国）取締役副社長  
平成3年11月     同社取締役社長  
平成11年4月     同社代表取締役副社長  
平成12年4月     代表取締役副社長 自動車機器事業部長  
                  Diamond Electric Mfg. Corporation（米国）取締役会長（現任）  
平成12年10月    Diamond Electric Hungary Kft.（ハンガリー）取締役（現任）  
平成15年4月     同社代表取締役社長  
平成16年5月     金剛石電機（蘇州）有限公司（中華人民共和国）執行董事（現任）  
平成19年4月     同社代表取締役社長 代表執行役員（現任）  
平成20年1月     当社社外取締役（現任）

吉竹 英之（よしたけ ひでゆき）

当社社外監査役

昭和11年11月1日生

〔略歴〕

昭和30年4月     大阪国税局採用  
平成6年7月     南税務署長就任  
平成7年7月     同退官  
平成7年9月     税理士登録  
平成16年1月     当社社外監査役（現任）

畑 守人（はた もりと）

弁護士 竹林・畑・中川・福島法律事務所所属

昭和21年7月24日生

〔略歴〕

昭和47年4月     弁護士登録（大阪弁護士会）  
平成8年4月     大阪簡易裁判所調停委員（現在まで）

平成 11 年 4 月 大阪弁護士会副会長（平成 12 年 3 月まで）  
平成 17 年 4 月 日本弁護士連合会常務理事（平成 18 年 3 月まで）  
平成 17 年 10 月 京都大学法学研究科法曹専攻非常勤講師  
平成 18 年 4 月 京都大学法学研究科法曹専攻客員教授（平成 20 年 3 月まで）  
平成 21 年 4 月 大阪弁護士会会長（平成 22 年 3 月まで）  
平成 21 年 4 月 日本弁護士連合会副会長（平成 22 年 3 月まで）  
平成 22 年 4 月 国立大学法人京都大学監事

## 別紙 3

## 当社株式の状況 (平成 22 年 10 月 31 日現在)

- 【発行可能株式総数】 8,000 万株  
 【発行済株式総数】 3,821 万 6,759 株  
 【議決権を有する株主数】 2,588 名  
 【大株主の状況】

氏名または名称	住所	所有株式数	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
寺浦興産株式会社	兵庫県宝塚市栄町一丁目 12-28	7,520,200	19.67
ジェーピー モルガン チェース バンク 385093 (常任代理人 株式会社みずほコーポレート銀行決済営業部)	英国・ロンドン (東京都中央区月島四丁目 16-13)	1,775,000	4.64
財団法人寺浦奨学会	兵庫県宝塚市栄町一丁目 12-28	1,554,000	4.06
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	東京都中央区晴海一丁目 8-11	1,462,400	3.82
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内一丁目 6-6	1,399,695	3.66
ビービーエイチ フォーフィデリティー ロープライス ストック フアンド (常任代理人 株式会社三菱東京UFJ銀行)	米国・ボストン (東京都千代田区丸の内二丁目 7-1)	1,150,000	3.00
ステート ストリート バンク アンド トラストカンパニー (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	米国・ボストン (東京都中央区日本橋三丁目 11-1)	1,106,700	2.89
メロン バンク トリーテイー クライアantz オムニバス (常任代理人 株式会社みずほコーポレート銀行決済営業部)	米国・ボストン (東京都中央区月島四丁目 16-13)	1,104,900	2.89
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内二丁目 7-1	889,699	2.32
ザ バンク オブ ニューヨーク ノントリーテイー ジャスデツク アカウント (常任代理人 株式会社三菱東京UFJ銀行)	米国・ニューヨーク (東京都千代田区丸の内二丁目 7-1)	888,114	2.32

#### 別紙 4

##### 当社の企業価値・株主共同の利益を著しく損なうと認められる類型

1. 買付者等が真に会社経営に参加する意思がないにもかかわらず、ただ株価をつり上げて高値で当社の株券等を当社関係者に引き取らせる目的で当社の株券等の取得を行っているまたは行おうとしている者（いわゆるグリーンメイラー）であると判断される場合
2. 当社の会社経営を一時的に支配して当社または当社グループ会社の事業経営上必要な知的財産権、ノウハウ、企業秘密情報、主要取引先または顧客等の当社または当社グループ会社の資産を特定株主グループまたはその関係者に移転する目的で当社の株券等の取得を行っているとして判断される場合
3. 当社の会社経営を支配した後に、当社または当社グループ会社の資産を特定株主グループまたはその関係者の債務の担保や弁済原資として流用する目的で、当社の株券等の取得を行っているとして判断される場合
4. 当社の会社経営を一時的に支配して、当社または当社グループ会社の事業に当面関係していない不動産、有価証券等の高額資産等を売却等により処分させ、その処分利益をもって一時的に高配当をさせるかあるいはかかる一時的な高配当による株価の急上昇の機会を狙って当社の株券等の高値売り抜けをする目的で当社の株券等の取得を行っているとして判断される場合
5. 買付者等の提案する当社の株券等の買付等の条件（買付対価の種類及び金額、当該金額の算定根拠、その他の条件の具体的内容（当該取得の時期及び方法を含む。）、違法性の有無ならびに実現可能性等を含むがこれらに限られない。）が、当社の企業価値に照らして著しく不十分または不適切なものであると判断される場合
6. 買付者等の提案する当社の株券等の買付方法が、いわゆる強圧的二段階買収（最初の買付で当社の株券等の全部の買付を勧誘することなく、二段階目の買付条件を不利に設定し、あるいは明確にしないで、公開買付け等の株券等の買付等を行うことをいう。）等の、株主の皆様の判断の機会または自由を制約し、事実上、株主に当社の株券等の売却を強要するおそれがあると判断される場合
7. 買付者等による支配権の取得により、当社株主、顧客、従業員その他の利害関係者の利益を不当に害することで、当社の企業価値・株主共同の利益の著しい毀損が予想されるなど、当社の企業価値・株主共同の利益の確保または向上を著しく妨げるおそれがある

ると判断される場合

8. 買付者等の経営陣または主要株主に反社会的勢力と関係する者が含まれている場合等、買付者等が公序良俗の観点から当社の支配株主として著しく不適切であると合理的に判断される場合

以上

新株予約権無償割当ての概要

1. 新株予約権付与の対象となる株主及びその発行条件

取締役会で定める割当期日における最終の株主名簿に記載または記録された株主に対し、その所有する当社普通株式（ただし、当社の所有する当社普通株式を除く。）1株につき1個の割合で新株予約権を割り当てる。

2. 新株予約権の目的となる株式の種類及び数

新株予約権の目的となる株式の種類は当社普通株式とし、新株予約権1個当たりの目的となる株式の数は、新株予約権1個につき1株を上限として、当社取締役会が別途定める数とする。

3. 発行する新株予約権の総数

新株予約権の割当総数は、新株予約権の無償割当決議において当社取締役会が別途定める一定の日における当社の最終の発行済株式総数（但し、当社が有する普通株式の数を除く。）を上限として、当社取締役会が別途定める数とする。

4. 新株予約権の発行価額

無償とする。

5. 新株予約権の無償割当ての効力発生日

当社取締役会が別途定める日とする。

6. 各新株予約権の行使に際して出資される財産の内容及び価格

各新株予約権の行使に際してする出資の目的は金銭とし、新株予約権の行使に際して出資される財産の当社普通株式1株あたりの金額は1円以上で取締役会が別途定める額とする。

7. 新株予約権の譲渡制限

新株予約権の譲渡については、取締役会の承認を要する。

8. 新株予約権の行使条件

非適格者に行使を認めないこと等を行使の条件として定める場合がある。

適用ある外国の証券法その他の法令上、当該法令の管轄地域に所在する者による新株予約権の行使に関し、所定の手続の履行または所定の条件の充足が必要とされる場合、

当該管轄地域に所在する者は、当該手続及び条件がすべて履行または充足されていると当社が認めた場合に限り、新株予約権を行使することができる。なお、当社が上記手続及び条件を履行または充足することで当該管轄地域に所在するものが新株予約権を行使することができる場合であっても、当社としてこれを履行または充足する義務を負うものではない。

詳細については、新株予約権の無償割当決議において当社取締役会が別途定めるものとする。

#### 9. 当社による新株予約権の取得

当社は、非適格者以外のものが所有する新株予約権を取得し、これと引き換えに新株予約権 1 個につき 1 株以内で取締役会が予め定める数の当社普通株式を交付することができる旨の取得条項を付す場合がある。他方、非適格者が所有する新株予約権については取得しないこととする場合がある。

なお、詳細については、新株予約権の無償割当決議において当社取締役会が別途定めるものとする。

#### 10. 対抗措置発動の中止等の場合の無償取得

当社取締役会が、対抗措置の発動を停止した場合その他新株予約権の無償割当決議において当社取締役会が別途定める場合には、当社は、新株予約権の全部を無償にて取得することができるものとする。

#### 11. 新株予約権の行使期間等

新株予約権の行使期間、その他必要な事項については、取締役会が別途定めるものとする。

以上